

3. 家族の状況と家族意識

3-1. 家族の状況 (FS2.3.4)

【男性】

同居家族をみると、どのグループでも全員が配偶者と暮らしているが、子どもとは同居していない人が僅かながら見られる。

親との同居率は、【若年一人っ子家族】が25.3%、【継続一人っ子家族】が32.6%、【複数子家族】が30.7%であり、【若年一人っ子家族】でやや低い。但し、自分の親との同居率は各グループ2割強で殆ど差はない。

同居人数を平均でみると、一人っ子家族グループでは若年、継続とも3.5人、【複数子家族】では4.9人となっている。【複数子家族】の半数強は5人以上で同居している。

【女性】

同居家族をみると、一人っ子家族グループでは、配偶者および子どもと同居していない人が少数ながら存在する。

親との同居率は、一人っ子家族グループでは若年、継続とも2割強、【複数子家族】では4割弱であり、大きな差が見られる。

同居人数をみると、【複数子家族】では半数強が5人以上であり、平均も4.9人となっており、【継続一人っ子家族】より1.6人ほど多い。

図表3-1. 同居家族と人数および兄弟・姉妹内地位(各単数回答)(基数:全体)

	同居家族						世帯の形態		同居人数					本人の長男率
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟・姉妹	祖父・祖母	核家族	三世帯同居	2人	3人	4人	5人以上	平均人数(人)	
各グループN=150	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
若年一人っ子家族男性	100.0	99.3	22.0	3.3	5.3	7.4	71.3	25.3	0.0	72.0	10.0	18.0	3.5	58.0
継続一人っ子家族男性	100.0	96.7	21.3	11.3	2.0	2.7	64.7	32.0	3.3	64.0	14.0	18.7	3.5	57.3
複数子家族男性	100.0	98.7	22.0	8.7	1.3	4.0	65.3	30.0	0.0	0.0	48.7	51.3	4.9	64.0
若年一人っ子家族女性	99.3	99.3	8.7	15.3	2.7	4.0	75.3	23.3	0.0	76.7	6.0	17.3	3.5	0.0
継続一人っ子家族女性	98.7	99.3	6.7	16.7	0.0	0.0	76.0	23.3	0.0	76.0	14.7	8.7	3.3	0.0
複数子家族女性	100.0	98.0	10.7	28.7	2.0	1.3	60.0	37.3	0.7	2.0	43.3	54.0	4.9	0.0

3-2. 家事の実行者(Q10)

【男性】

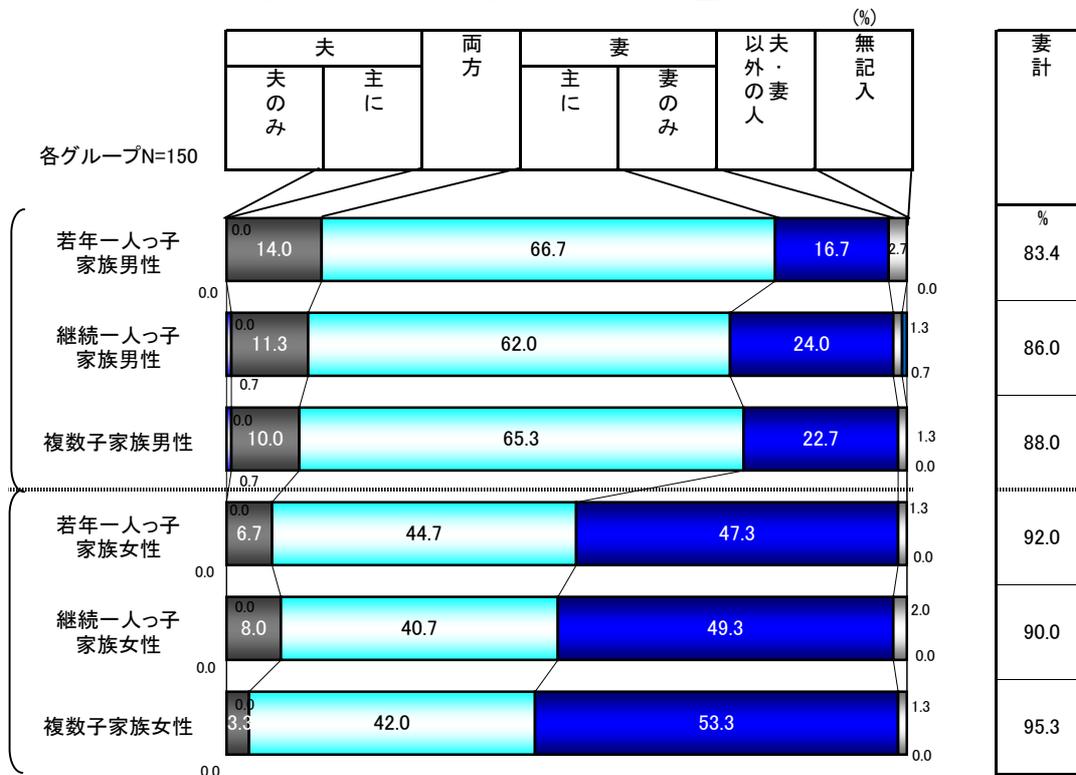
どのグループでも家事は「主に妻が行っている」と答える人が6割強と多い。これに「妻のみ」を併せると、どのグループも8割台に達し、大半が家事は妻任せにしていることがうかがえる。

【女性】

男性では「主に妻が行っている」という答えが多かったが、女性では「妻のみ」と答える人が半数前後を占めており、大きなギャップが見られる。

「妻のみ」と答える人は、特に【複数子家族】に多く、半数を超えている。

図表3-2. 家事の実行者(単数回答)(基数:全体)



3-3. 家事の負担感(Q11)

3-3-1. 本人の家事負担感

【男性】

家事について【若年一人っ子家族】では、3人に1人が負担を感じている。負担を感じる人が少ないのは【複数子家族】であり、4人に1人に留まっている。

【女性】

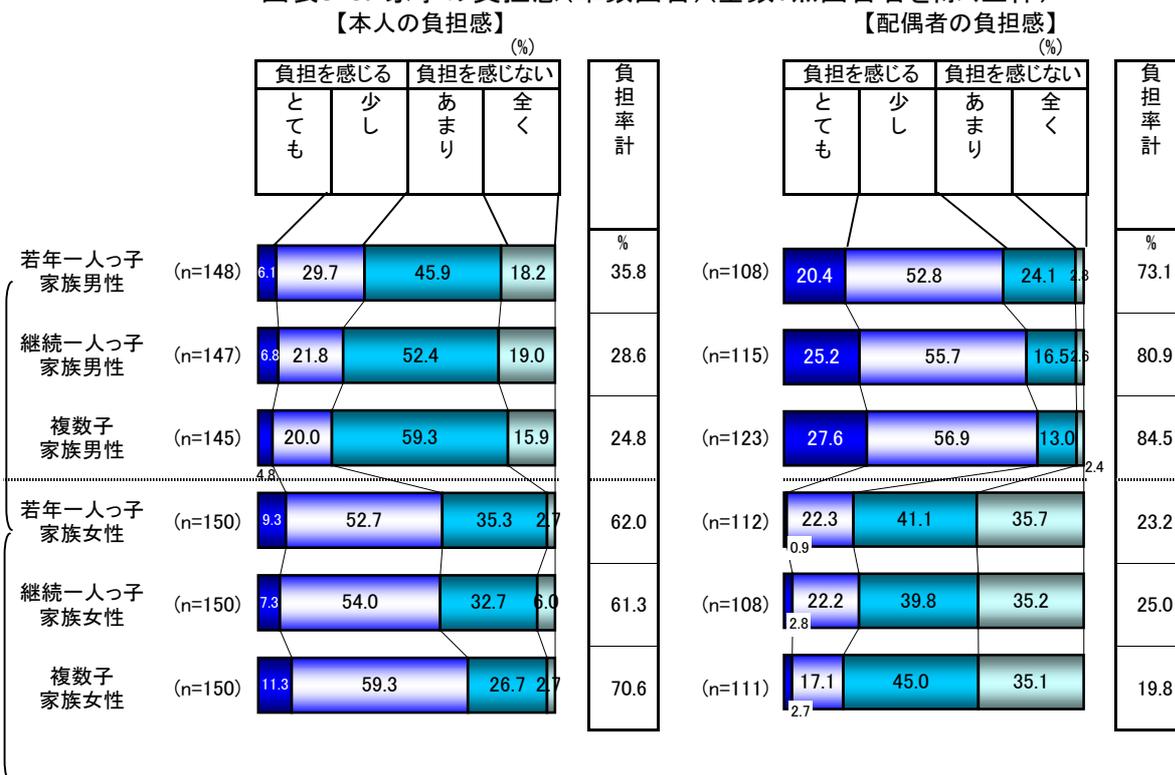
若年、継続とも一人っ子家族グループでは6割強が、【複数子家族】では7割強が負担を感じている。【複数子家族】では、「とても負担を感じる」と答える人が1割強存在する。

3-3-2. 配偶者の家事負担感

本人と配偶者の負担感を比較すると、男性が判断した妻の負担感は女性本人が感じている負担感より高いものの、女性が判断した夫の負担感は男性本人が感じている負担感より低くなっている。

	男性		女性	
	男性本人の負担感	女性が判断した夫の負担感	男性本人の負担感	女性が判断した夫の負担感
若年一人っ子家族	35.8	>	23.2	62.0 < 73.1
継続一人っ子家族	28.6	>	25.0	61.3 < 80.9
複数子家族	24.8	>	19.8	70.7 < 84.6

図表3-3. 家事の負担感(単数回答)(基数:無回答者を除く全体)



3-4. 家族に対する意識

3-4-1. 『家計は主に夫の収入だけで賄うべきだ』に対する意見(Q9-⑦)

【男性】

『家計は主に夫の収入だけで賄うべきだ』に肯定している人は、最も多い【若年一人っ子家族】でも4割に留まっている。【継続一人っ子家族】では3割に過ぎない。

【女性】

『家計は主に夫の収入だけで賄うべきだ』と考えている人は女性では、更に少ない。特に、有職主婦が多い【複数子家族】では4人に1人に留まっている。

3-4-2. 『妻の仕事の有無にかかわらず、夫は育児に積極的にかかわるべきだ』に対する意見(Q9-⑨)

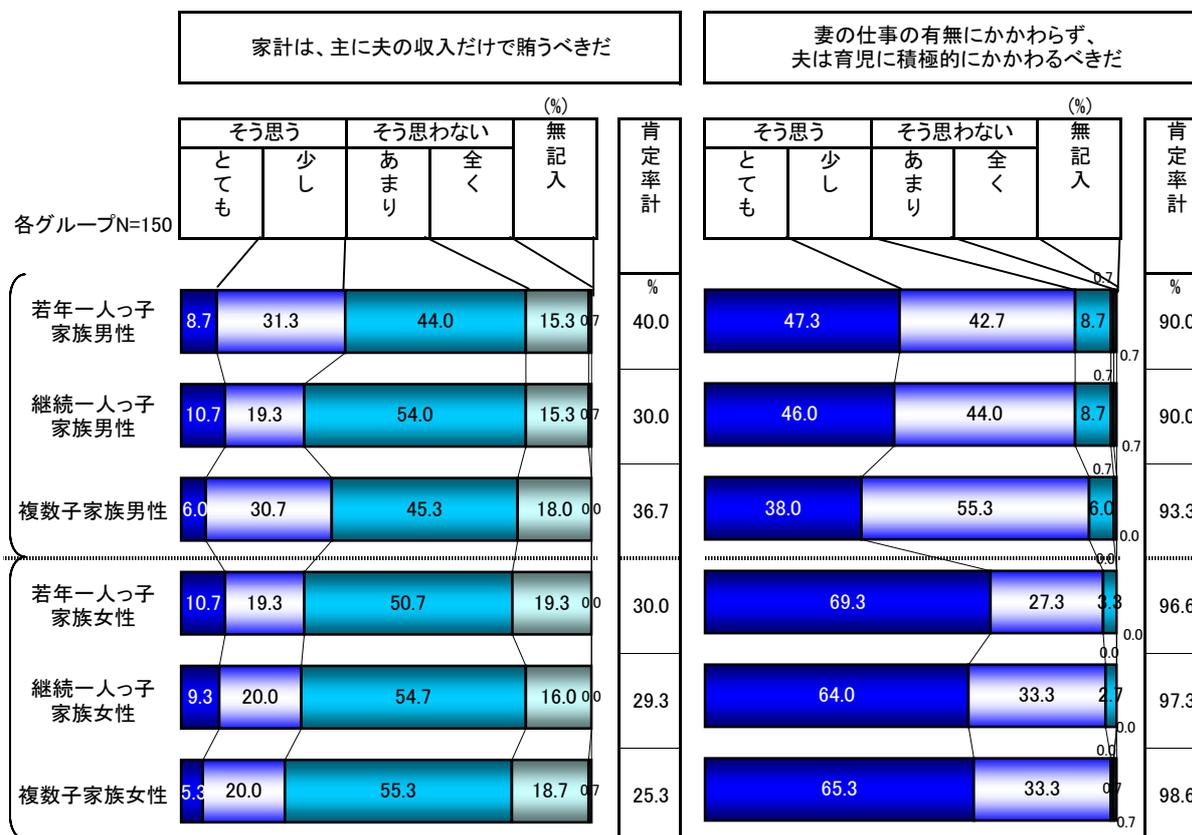
【男性】

この意見に関しても、殆どが肯定しているが、積極的な肯定者は半数に満たない。特に、【複数子家族】で少ない。

【女性】

女性の場合は全面的に賛成で、どのグループでも積極的賛同者が6割を超えている。

図表3-4-1. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



3-4-3. 『子どもに対する父親・母親の役割を区別すべきでない』に対する意見(Q9-⑩)

【男性】

どのグループも6割台が「区別すべきでない」と答えているが、積極的に肯定する人は少ない。
特に、【複数子家族】、【継続一人っ子家族】では2割強に過ぎない。

【女性】

どのグループも8割前後が肯定しており、男性より更に肯定率が高くなっている。
しかも、積極的肯定者が4割前後を占める。

3-4-4. 『意識して子どもを持たない夫婦は国の将来を考えると無責任だ』に対する意見

【男性】

(Q9-⑧)

どのグループでも肯定する人はあまり多くない。

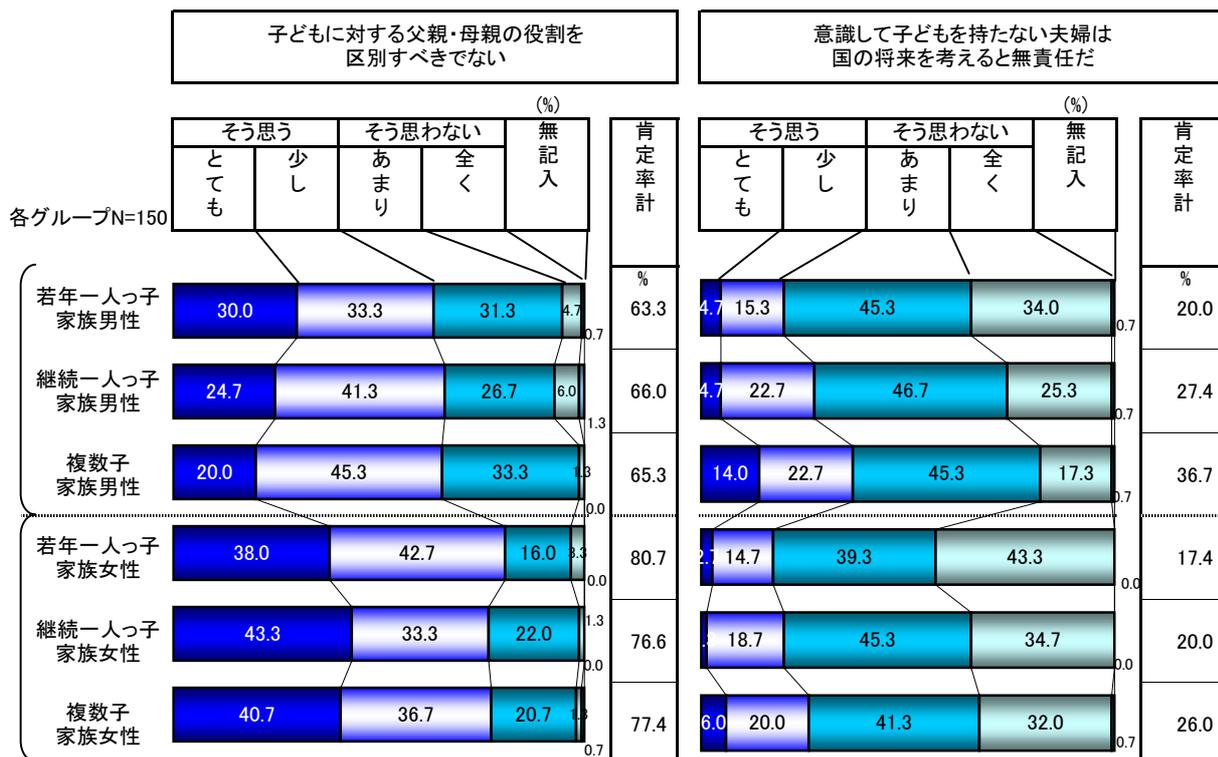
【若年一人っ子家族】では2割が、【継続一人っ子家族】では3割弱が、【複数子家族】では4割弱が肯定しており、ライフステージによる違いが見られる。

【女性】

男性より更に肯定者は少なく、どのグループも2割前後に留まっている。

グループ別に肯定率をみると、【複数子家族】が26.0%で最も高く、男性と同様の傾向が認められる。

図表3-4-2. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



3-4-5. 『親の老後は子どもが面倒を見るべきだ』に対する意見(Q9-⑫)

【男性】

【複数子家族】は6割が肯定しているが、一人っ子家族で肯定している人は半数前後である。

【複数子家族】の男性には長男が多く、このことが影響していると思われる。

長男比率 ⇒ 【複数子家族】:64.0% 【継続一人っ子家族】:57.3%

【女性】

男性に比べ、肯定者は少なく、特に【継続一人っ子家族】では、肯定者が3人に1人に留まる。

【複数子家族】では、三世代同居者が多いためか、肯定者は【継続一人っ子家族】に比べ多い。

三世代同居率 ⇒ 【複数子家族】:37.3% 【継続一人っ子家族】:23.3%

3-4-6. 『親と同居しなければならないとしたら、男性側の親と同居すべきだ』に対する意見 (Q9-⑬)

【男性】

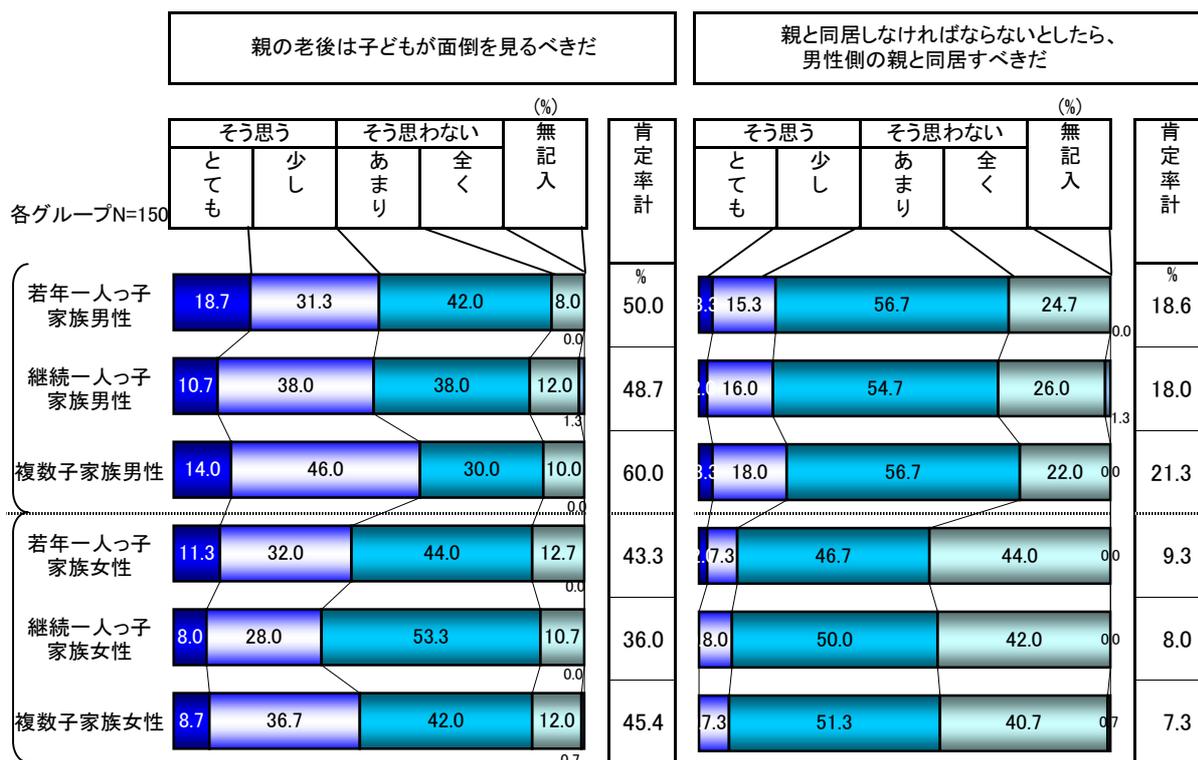
どのグループの男性も、この意見に肯定する人は2割前後に留まり、6割弱が「あまりそう思わない」と答えている。

【女性】

肯定者は男性より更に少なく、どのグループも1割に満たない。

「全くそう思わない」という強い否定者がどのグループにも4割強存在する。

図表3-4-3. 家族に関する意見(単数回答)(基数:全体)



3-5. 子どもの位置付け(Q15)

【男性】

子どもは何よりも「生きがい・喜び・希望」であり、「無償の愛を捧げる対象」「夫婦の絆を深めるもの」として位置付けられている。この認識はどのグループにも共通してみられる認識である。

子どもがまだ小さい【若年一人っ子家族】では「生きがい・喜び・希望」「無償の愛を捧げる対象」と位置づける人が他グループに比べ多い反面、「独立した一人の人間」とみる人は少ないのが特徴である。また、「自分の分身」と考える人が多いのも特徴になっている。

【継続一人っ子家族】の特徴は「生きがい・喜び・希望」「夫婦の絆を深めるもの」との認識が【複数子家族】に比べ弱いことである。

【女性】

女性の場合も、【若年一人っ子家族】の特徴は男性と同様であるが、特に「無償の愛を捧げる対象」とみる人は7割と多くなっている。

【継続一人っ子家族】と【複数子家族】の認識にほとんど違いはみられない。

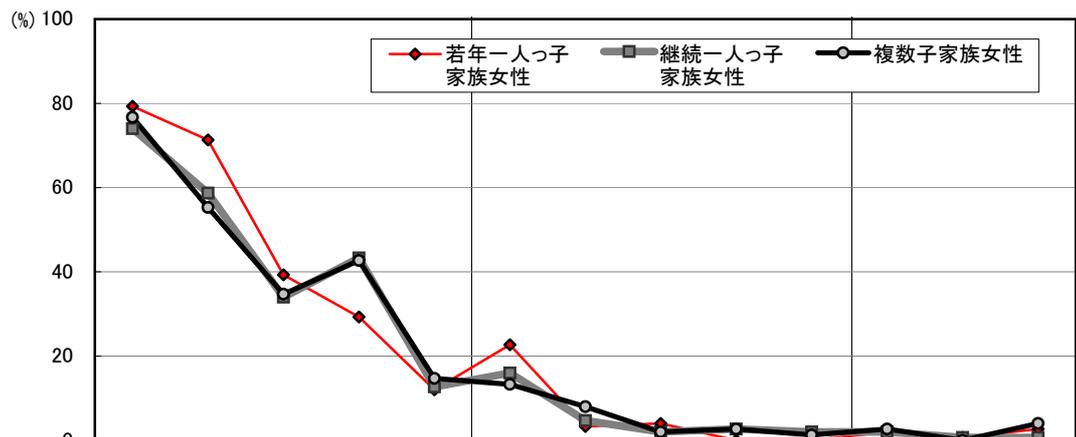
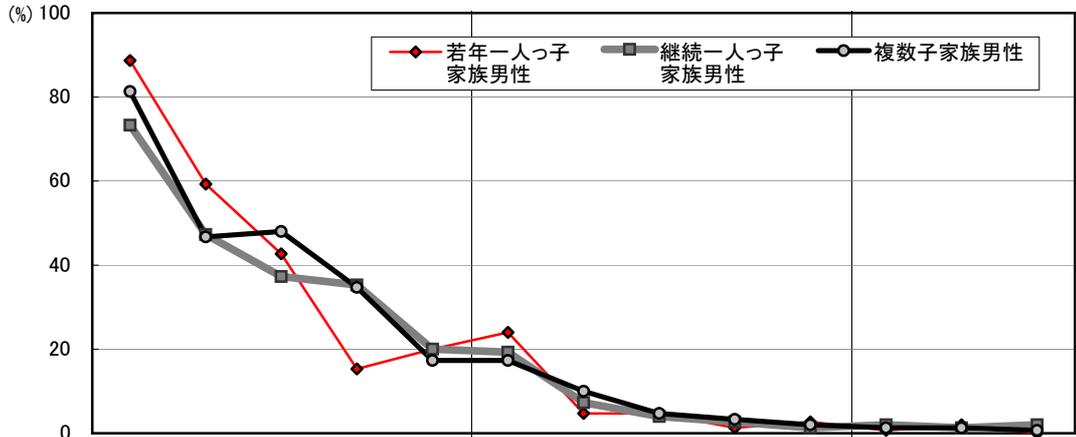
なお、「自分の分身」「配偶者の分身」と考える人の割合は圧倒的に「自分の分身」と答える人が多い。これは女性だけでなく、男性にも見られる傾向である。

図表3-5-1. 子どもの位置付け(回答3つまで)(基数:全体)

各グループN=150

		若年一人っ子家族	%	継続一人っ子家族	%	複数子家族	%
男性	1位	生きがい・喜び・希望	88.7	生きがい・喜び・希望	73.3	生きがい・喜び・希望	81.3
	2位	無償の愛を捧げる対象	59.3	無償の愛を捧げる対象	47.3	夫婦の絆を深めるもの	48.0
	3位	夫婦の絆を深めるもの	42.7	夫婦の絆を深めるもの	37.3	無償の愛を捧げる対象	46.7
	4位	自分の分身	24.0	独立した一人の人間	35.3	独立した一人の人間	34.7
	5位	自分の血を後世に残せるもの	20.0	自分の血を後世に残せるもの	20.0	自分の血を後世に残せるもの	17.3
女性	1位	生きがい・喜び・希望	79.3	生きがい・喜び・希望	74.0	生きがい・喜び・希望	76.7
	2位	無償の愛を捧げる対象	71.3	無償の愛を捧げる対象	58.7	無償の愛を捧げる対象	55.3
	3位	夫婦の絆を深めるもの	39.3	独立した一人の人間	43.3	独立した一人の人間	42.7
	4位	独立した一人の人間	29.3	夫婦の絆を深めるもの	34.0	夫婦の絆を深めるもの	34.7
	5位	自分の分身	22.7	自分の分身	16.0	自分の血を後世に残せるもの	14.7

図表3-5-2. 子どもの位置付け(回答3つまで)(基数:全体)



各グループ
N=150

	生きがい・喜び・希望	無償の愛を奉げる対象	夫婦の絆を深めるもの	独立した一人の人間	自分の血を 後世に残せるもの	自分の分身	社会的資産	配偶者の分身	経済的負担を与えるもの	老後の面倒を 人	精神的負担を与えるもの	ライバル	その他
若年一人っ子 家族男性	88.7	59.3	42.7	15.3	20.0	24.0	4.7	4.7	1.3	2.7	0.7	2.0	0.0
継続一人っ子 家族男性	73.3	47.3	37.3	35.3	20.0	19.3	7.3	4.0	2.7	1.3	2.0	1.3	2.0
複数子家族男性	81.3	46.7	48.0	34.7	17.3	17.3	10.0	4.7	3.3	2.0	1.3	1.3	0.7
若年一人っ子 家族女性	79.3	71.3	39.3	29.3	12.0	22.7	3.3	4.0	0.0	0.0	2.0	0.7	2.7
継続一人っ子 家族女性	74.0	58.7	34.0	43.3	12.7	16.0	4.7	2.0	2.7	2.0	2.0	0.7	0.7
複数子家族女性	76.7	55.3	34.7	42.7	14.7	13.3	8.0	2.0	2.7	1.3	2.7	0.0	4.0

3-6. 子どもに残したいもの・伝えたいもの(Q18)

【男性】

どのグループもまず第一に「生きていく上での強さ・知恵」を身につけさせたいと考えており、その割合は8割前後に達する。「生きていく上での強さ・知恵」には遠く及ばないが、「親子の絆」「人生の素晴らしさ」も挙げられている。

【女性】

「生きていく上での強さ・知恵」は、男性同様、どのグループからも最も多く挙げられている。次いで多いのが「愛」「親子の絆」であり、特に【若年一人っ子家族】でその割合が高い。

【継続一人っ子家族】と【複数子家族】を比較すると、【複数子家族】は「愛」「親子の絆」よりも「人生の素晴らしさ」を伝えたいとしている。

図表3-6. 子どもに残したい・伝えたいもの(回答3つまで)(基数:全体)

